

名古屋大学附属図書館所蔵の  
ジュネーヴ版『百科全書』の鑑定について

The Geneva Edition of *Encyclopédie* Held  
by Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館研究開発室  
Nagoya University Library Studies

福田名津子  
FUKUDA, Natsuko

Abstract

Nagoya University Library (NUL) owns 2 full sets of *Encyclopédie*, which are classified as rare books. The publication of Paris edition began in 1751, followed by the supplements, plates and index. It was one of the bestsellers in Europe during the 18th century, and there are several editions in folio, quarto and octavo.

*The Encyclopédie* in folio held by NUL was not identified as the Paris edition, but as its counterfeit, the Geneva edition. We had not distinguished them until the 1950s, since we did not see any difference between the Paris and the Geneva edition. Besides, the existence of differences among Geneva editions made the situation more complicated. We found that the 2 Geneva editions of NUL were not very much the same as either the 'Berkeley Set' or the 'Riverside Set', and they were not exactly the same.

1. 購入の経緯

名古屋大学附属図書館（以下、当館と略記する）貴重図書室は現在、『百科全書』*ENCYCLOPÉDIE, OU DICTIONNAIRE RAISONNÉ DES SCIENCES, DES ARTS ET DES MÉTIERS* を補遺、図版集、索引も含めた完全なセットとして全35冊、これを2セット所蔵している。購入の経緯について「図書原簿<sup>1)</sup>」の記録には、1961年3月23日に当大学の文学部哲学科が紀伊国屋書店から購入し、1997年1月に当館に供用換えされたとある。もう1セットは、1967年2月4日に当館がオランダのネイホフ Nijhoff から購入したと記録にある。本稿では仮に、前者を NUL Set 1、後者を NUL Set 2 と

して区別する。

鑑定の結果<sup>2)</sup>、2セットともいわゆるパリ・オリジナル版でなく、後に出版されたジュネーヴ版であることが判明した。ジュネーヴ版とは、『百科全書』の中心的出版業者であるル・ブルトン Le Breton<sup>3)</sup> が後に出版権をパンクック Panckoucke に売却し、これに基づいて出版された異本である。同版は、フランス国内外を合わせて2000部の予約購読が確認されており、パリ版の4050部に対して数の点では希少である。以下では『百科全書』を概説し、当館所蔵の『百科全書』の鑑定結果について報告したい。

## 2. 複数の『百科全書』

『百科全書』を出版する企画は、1728年にロンドンで出版された E.チェンバース Chambers 編『サイクロペディア』*CYCLOPÆDIA: OR, AN UNIVERSAL DICTIONARY OF ARTS and SCIENCES* (全2巻)の仏訳事業として、1745年に始まった<sup>4)</sup>。この企画は単なる翻訳の域を超えて、増補改訂フランス語版へと発展し、①パリ版『百科全書』の本文は全17巻(1751-1765)、②『図版集』*RECUEIL DE PLANCHES, SUR LES SCIENCES, LES ARTS LIBERAUX, ET LES ART MÉCHANIQUES, AVEC LEUR EXPLICATION*は全11巻(1762-1772)出版された。このほか、③『百科全書補遺』*SUPPLÉMENT À L'ENCYCLOPÉDIE, OU DICTIONNAIRE RAISONNÉ DES SCIENCES, DES ARTS ET DES MÉTIERS* (全4巻、1776-1777)、④『図版集補遺』*SUITE DU RECUEIL DE PLANCHES, SUR LES SCIENCES, LES ARTS LIBÉRAUX, ET LES ARTS MÉCANIQUES, AVEC LEUR EXPLICATION* (1777)、⑤『索引』*TABLE ANALYTIQUE ET RAISONNÉE DES MATIÈRES CONTENUES DANS LES XXXIII VOLUMES IN-FOLIO DU DICTIONNAIRE DES*

*SCIENCES, DES ARTS ET DES MÉTIERS, ET DANS SON SUPPLÉMENT* (全2巻、1780)が出版されており、これらを合計すると全35冊にのぼる。

『百科全書』は18世紀のベスト・セラーともいえる売れ行きで、現在のそれと同じように版を重ね、小型の廉価版も出回った。現時点で確認されているのは、2つ折り判 folio が4種、4つ折り判 quarto が3種<sup>5)</sup>、8つ折り判 octavo が1種の合計8種である。イタリアで出版されたルッカ版、リヴォルノ版も含め、これらの異本はすべてフランス語のまま各国で復刻されたものである。

当館も所蔵するジュネーヴ版『百科全書』の本文17巻は1771-1774年、図版集11巻は1770-1776年に出版された。現在では、R.N. シュワップらによって作成されたパリ版の目録<sup>7)</sup>を使用した鑑定作業が可能になったものの、出版情報(発行年、発行地)をパリ・オリジナル版と偽って作られた、パリ版そっくりのジュネーヴ版をそれとして認識することは容易でなかった<sup>8)</sup>。実際、1950年代 G.B. ワッツによってその存在が指摘されるまで、ジュネーヴ版は研究者たちにも知られておらず、世界じゅうのジュネーヴ版はすべてパリ版

Fig. 1 『百科全書』の異本比較<sup>6)</sup>

【2つ折り版】

版	パリ版	ルッカ版 Lucca	リヴォルノ版 Livorno	ジュネーヴ版 Genève
発行地	パリ [ヌーシャテル]	ルッカ (イタリア)	リヴォルノ (イタリア)	ジュネーヴ (スイス)
判型	2つ折り (folio)	2つ折り (folio)	2つ折り (folio)	2つ折り (folio)
巻数と 刊行年	本文 17 巻 (1751-65) 図版 11 巻 (1762-72)	本文 17 巻 (1758-71) 図版 11 巻 (1765-76)	本文 17 巻 (1770-75) 図版 11 巻 (1771-78)	本文 17 巻 (1771-74) 図版 11 巻 (1770-76)
予約 購読数	4050 (内訳) フランス国内: 2,000 国外: 2,050	3000 (内訳) フランス国内: 250 国外: 2,750	1500 (内訳) フランス国内: 0 国外: 1,500	2000 (内訳) フランス国内: 1,000 国外: 1,000

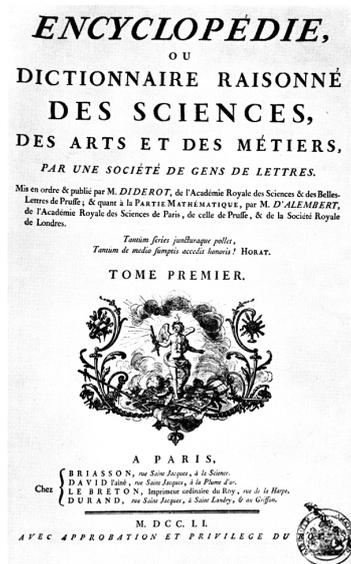
【4つ折り版、8つ折り版】

版	イヴェルドン版 Yverdon	スイス4つ折り版	スイス8つ折り版	『系統的百科全書』
発行地	イヴェルドン (スイス)	ジュネーヴ、 ヌーシャテル	ベルン、 ローザンヌ	パリ
判型	4つ折り (quarto)	4つ折り (quarto)	8つ折り (octavo)	4つ折り (quarto)
巻数と 刊行年	本文 42 巻 (1770-75) 図版 10 巻 (1775-80)	本文 36 巻 (1778-79) 図版 3 巻 (1778-79)	本文 36 巻 (1778-82) 図版 3 巻 (1778-82)	本文 157 巻 (1782-1832) 図版 0
予約 購読数	1600 内訳不明	8,011 (内訳) フランス国内: 7,257 国外: 754	5,500 (内訳) フランス国内: 1,000 国外: 4,500	5,000 内訳不明

として扱われてきた。

現在、『百科全書』の本文17巻は、標題紙の特徴によって、パリ版とジュネーヴ版の判別が可能である<sup>9)</sup>。ジュネーヴ版の1-7巻では、標題紙の上部3分の1あたり、題字に続いてPAR UNE SOCIÉTÉ DE GENS DE LETTRES. となっており、SOCIÉTÉ のはじめの E にあるべきアクサン・テギユが欠落している。また、それに続いて Mis en

ordre & publié par M. *DIDEROT*, de l' Académie Royale des Sciences & des Belles-Lettres de Prusse; & quant à la PARTIE MATHEMATIQUE, par M. *D'ALEMBERT*, de l' Académie Royale des Sciences de Paris, de celle de Prusse, & de la Société Royale de Londres. (下線は引用者による) となっており、MATHÉMATIQUE のはじめの E にあるべきアクサン・テギユも欠落している<sup>10)</sup>。



Pic. 1 『百科全書』第1巻の標題紙 (パリ版) 全体  
Richard N. Schwab, Walter E. Rex and J. Lough "Inventory of Diderot's Encyclopédie II,"  
*Studies on Voltaire and the Eighteenth Century*, vol. 83 (1971).

### PAR UNE SOCIÉTÉ DE GENS DE LETTRES.

Mis en ordre & publié par M. *DIDEROT*, de l'Académie Royale des Sciences & des Belles-Lettres de Prusse; & quant à la PARTIE MATHÉMATIQUE, par M. *D'ALEMBERT*, de l'Académie Royale des Sciences de Paris, de celle de Prusse, & de la Société Royale de Londres.

Pic. 2 『百科全書』第1巻の標題紙 (パリ版)  
*Encyclopédie, ou, Dictionnaire raisonné des sciences, des arts et des métiers, par une société de gens de lettres*  
(Paris and Neufchastel, 1751-1765; reprint, compact ed., New York: Pergamon Press, 1986), vol. 1.

### PAR UNE SOCIÉTÉ DE GENS DE LETTRES.

Mis en ordre & publié par M. *DIDEROT*, de l'Académie Royale des Sciences & des Belles-Lettres de Prusse; & quant à la PARTIE MATHÉMATIQUE, par M. *D'ALEMBERT*, de l'Académie Royale des Sciences de Paris, de celle de Prusse, & de la Société Royale de Londres.

Pic. 3 『百科全書』第1巻の標題紙 (ジュネーヴ版)  
名古屋大学附属図書館所蔵

PAR UNE SOCIÉTÉ DE GENS DE LETTRES.

MIS EN ORDRE ET PUBLIÉ PAR M<sup>r</sup>. \*\*\*.

Pic. 4 『百科全書』第8巻の標題紙 (パリ版)

*Encyclopédie, ou, Dictionnaire raisonné des sciences, des arts et des métiers, par une société de gens de lettres*  
(Paris and Neufchastel, 1751-1765; reprint, compact ed., New York: Pergamon Press, 1986), vol. 2.

PAR UNE SOCIÉTÉ DE GENS DE LETTRES.

MIS EN ORDRE ET PUBLIÉ PAR M<sup>r</sup>. \*\*\*.

Pic. 5 『百科全書』第8巻の標題紙 (ジュネーヴ版)  
名古屋大学附属図書館所蔵

『百科全書』は1759年、国王の特認状が取り消されて表向きには出版が禁止されたため、それ以降の8-17巻は匿名での出版に切り替えられた。このため8巻以降では題字に続いて、*PAR UNE SOCIÉTÉ DE GENS DE LETTRES. MIS EN ORDRE ET PUBLIÉ PAR M<sup>r</sup>. \*\*\*.* と記されており、このときの匿名を表すアスタリスクがパリ版では6つ角であるのに対し、ジュネーヴ版では5つ角である。

以上、*SOCIÉTÉ* と *MATHÉMATIQUE* のアクサン・テギュの欠落、アスタリスクの形という3点の指標により、パリ・オリジナル版と同一の外観を装ったジュネーヴ版は、標題紙によって判別が可能ということになる。これらの指標、およびより詳細な対照項目<sup>11)</sup>と照合した結果、当館所蔵の『百科全書』本文17巻は NUL Set 1, Set 2 とともにジュネーヴ版であることが確認された。

図版集については<sup>12)</sup>、パリ版とジュネーヴ版双

方とも、「図版解説」*explications* の表ページの右下方に「折り記号」*signature designation* を持つ点では同じである。だが、表ページの左下方にある「製本指示記号<sup>13)</sup>」*binders' instruction* に関して、パリ版では1-3巻まで確認できるものの、それ以降の巻には見当たらない。一方、ジュネーヴ版では「製本指示記号」が全巻にわたって付され、とりわけ2巻以降では、順序を表す数字の使用されている点でパリ版と異なる。したがって2巻以降は、「製本指示記号」の形態によって、パリ版とジュネーヴ版の判別が可能である。

第1巻に関して、ジュネーヴ版では、すべての図版にベナールBénardのサインがあるが、同様のサインはパリ版には存在しない点で、両者を判別することができる。これらの指標、およびより詳細な対照項目<sup>14)</sup>と照合した結果、NUL Set 1, Set 2 の図版集とも、ジュネーヴ版であることが確認された。

cornets qu'il mettoit en cimier sur son héaume ; & lorsqu'il se présentoit à un autre tournoi, il ne lui falloit pas d'autres preuves de noblesse pour y être reçu ; l'usage en subsiste encore dans les maisons de Bavière, d'Erpach, & quantité d'autres familles Allemandes.  
*Blafon* signifie en allemand *sonner* ou *publier*, d'où l'on a fait le mot *Blafon*.  
Celui d'*armoiries* vient des boucliers qui, portés par les gens de guerre, leur servoient d'armes défensives.

6. *Blafon*.

personne.

Le pape porte pour marque de sa dignité papale, son écu timbré de la tiare avec deux clés.

Les cardinaux, le chapeau rouge ou de gueule ; les archevêques, le chapeau vert ou finople.

Les couronnes, les colliers des ordres, les mortiers & maffes de chanceliers, maréchaux de France, ancres d'amiraux, vice-amiraux, & généraux des galères, étendards de colonels généraux de cavalerie, & drapeaux d'infanterie, &c. font des armoiries de dignités extérieures.

A

Pic. 6 『百科全書』図版集第2巻 "BLASON OU ART HERALDIQUE" (紋章) より「折り記号」(A)と「製本指示記号」(6. Blason)

名古屋大学附属図書館所蔵

### 3. 複数のジュネーヴ版

『百科全書』の本文17巻に関し、パリ・オリジナル版とジュネーヴ版の判別は可能である。しかし異本問題の抱える複雑さは、これにとどまらない。というのは、わずかな異同によって区別される、複数のパリ版および複数のジュネーヴ版が存在するためである。パリ版に関しては第3フォリオ版までの3種、ジュネーヴ版に関しては、カリフォルニア大学バークリー University of California, Berkeley 図書館所蔵の「バークリー・セット<sup>15)</sup>」のほかに、同大学リヴァーサイド Riverside 図書館所蔵の「リヴァーサイド・セット<sup>16)</sup>」の存在が知られている。

少なくとも当館所蔵の NUL Set 1, Set 2 に、「リヴァーサイド・セット」は含まれていないことを確認している<sup>17)</sup>。それでは当館の『百科全書』が、シュワップらの調査したジュネーヴ版「バークリー・セット」と完全に同じかというところを証明するのもそう容易ではない。手順としてまず、シュワップらがパリ版に関して作成したのと同様な、ジュネーヴ版の完全な目録が必要であり、さらにこれとの照合を経なければならない。しかし現在に至るまで、ジュネーヴ版についてはその鑑定指標や対照項目が明らかにされているものの、目録は公表されていないのである。

シュワップらがパリ版の目録を作成、発表してから30年以上も経った現在でもジュネーヴ版のそれが存在しない理由のひとつに、『百科全書』の容量の問題が考えられる。『百科全書』の本文17巻は、各巻がおおよそ1000ページ前後で、合計すると16,142ページにもなる。事項数は各巻でかなりのばらつきがあり、少ない巻で2000強、多い巻で6000強あり、17巻を合計すると71,810にもものぼる。この容量を考慮すると、『百科全書』の目録を作成することは気の遠くなるような作業に違いない。

ジュネーヴ版の目録が未だ作成されていない理由は、ほかにも考えられる。それはさきの理由と比べてより内在的な要因である。『百科全書』は18世紀における最も偉大で重要な書物のひとつであり、研究者たちにとって魅力の尽きない対象である。その証拠に、『百科全書』は今もなお、様々な方面からのアプローチを可能にし続けている。たとえばデジタル化<sup>18)</sup>、図像研究、クロスレ

Fig. 2 『百科全書』パリ版各巻のページ数と事項数

	ページ数	事項数
第1巻	914	5,247
第2巻	871	6,635
第3巻	905	3,765
第4巻	1,098	5,027
第5巻	1,011	3,500
第6巻	928	2,427
第7巻	1,030	3,137
第8巻	936	3,766
第9巻	956	4,240
第10巻	927	3,776
第11巻	936	4,477
第12巻	965	4,056
第13巻	914	4,318
第14巻	949	5,065
第15巻	950	4,583
第16巻	962	4,650
第17巻	890	3,141
計	16,142	71,810

ファレンスの追跡と解釈、執筆者の同定、出版と普及事情の解明など限りなくあり、それらはジュネーヴ版の目録作成に先行せざるをえないのかもしれない。『百科全書』は容量にして膨大な書物であり、くわえてその魅力は200年以上経った現在でも、尽きるところか湧きだして止まらない。その結果、これと真剣に向き合おうとする研究者に対し、喜びと同量の苦悩を与えてやまない書物であるといえる。

ジュネーヴ版の目録が現存しないため、当館所蔵の NUL Set 1, Set 2 をジュネーヴ版「バークリー・セット」と完全に同一であると証明することは困難であるが、手始めに「ページ付け」 pagination の照合は可能であった。「ページ付け」について、「バークリー・セット」と完全に一致するのは、NUL Set 1, Set 2 とともに17巻中11巻にとどまり、全巻は一致しなかった。なお、NUL Set 1, Set 2 の一致・相違の仕方には若干の相違が見られ、両者は完全に同一ではないことも証明された。

以上、当館所蔵の『百科全書』本文と図版集ともにジュネーヴ版と同定したうえで、本文17巻に関して、1) 「リヴァーサイド・セット」は含まれていない点、2) 「ページ付け」では「バークリー・セット」と完全に一致しなかった点、3) NUL Set 1, Set 2 は完全なる同一物ではない点を確認した。

最後に、「ページ付けの誤り」 misnumberingに  
 関しては、その有無を比較し、誤りのないほう

が訂正済みで後に印刷された可能性が高いが、こ  
 れを断定するにはさらなる調査が必要であろう。

Fig. 3 Pagination

表記に関して、当館所蔵の『百科全書』が「バークリー・セット」と完全に一致する場合には、*exactly the same.*とした。  
 当該部分のみ一致する場合は、-で表し、一致しない部分についてはその違いを記した。

	Berkeley Set	NUL Set 1	NUL Set 2
I	i-iii. 1-914. [misnumbering 914 as 714.]	<i>exactly the same.</i>	<i>exactly the same..</i>
II	i-iv. 1-871. [misnumbering 809 as 309.]	- - - [misnumbering 630 as 930.] [872 not numbered.]	- - - [872 not numbered.]
III	i-xvi. 1-905. [misnumbering 102 as 120.]	<i>exactly the same.</i>	<i>exactly the same.</i>
IV	i-ii. 1-1098.	<i>exactly the same.</i>	<i>exactly the same.</i>
V	i-xviii. 1-632. foliated 633 to 648. 649-1011.	<i>exactly the same.</i>	<i>exactly the same.</i>
VI	i-viii. 1-855. 848-849. 858-928.	- - - - [misnumbering 838 as 836.]	- - - - [misnumbering 838 as 836.]
VII	i-xvi. 1-232. foliated 233 to 247. foliated 248-1 to 248-9. 249-454. 451-458. 463-550. 555-578. 575-1025.	<i>exactly the same.</i>	- - - - - - - - [misnumbering 731 as 73.]
VIII	i-ii. 1-936.	<i>exactly the same.</i>	<i>exactly the same.</i>
IX	1-870. 783-956. [misnumbering 186 as 187.] [misnumbering 271 as 217.] [104 not numbered.]	- - - - [misnumbering 203 as 205]	<i>exactly the same.</i>
X	1-56. 59-66. 65-927. [misnumbering 267 as 276.] [misnumbering 329 as 331.] [misnumbering 335 as 337.] [misnumbering 621 as 129.]	<i>exactly the same.</i>	<i>exactly the same.</i>
XI	1-836. **829-836**. 837-963. [732 not numbered.]	- - - - [misnumbering 740 as 640.]	- - - - [misnumbering 740 as 640.]
XII	1-965. [misnumbering 681 as 861.]	<i>exactly the same.</i>	<i>exactly the same.</i>
XIII	1-914. 1-34. [730 not numbered.]	<i>exactly the same.</i>	<i>exactly the same.</i>
XIV	1-949. [misnumbering 678 as 778.]	<i>exactly the same.</i>	<i>exactly the same.</i>
XV	1-950. [misnumbering 813 as 713.]	- - [misnumbering 333 as 335.]	- - [misnumbering 333 as 335.]
XVI	1-962.	- [misnumbering 594 as 94.]	<i>exactly the same.</i>
XVII	1-838. 849-890. [misnumbering 541 as 529.] [misnumbering 747 as 745.] [582, 660, 854, 887 not numbered]	<i>exactly the same.</i>	- - - - [misnumbering 636 as 36.]

## 注・引用文献

- 1) ただし法人化以降は、原簿データベースを原簿としている。
- 2) 2006年3月13日から15日にかけて、逸見龍生氏（新潟大学）の立ち会いのもと、当館所蔵の『百科全書』鑑定作業を行った。『百科全書』というテキストに触れて日の浅い筆者に対し、氏は大変有益な助言をくださっただけでなく、多くのごく基本的な質問にも丁寧にお答えくださった。ここに御礼申し上げたい。
- 3) 『百科全書』にはこのほか、ブリアソンBriasson、ダヴィドDavid、デュランDurandらが関わっており、その名が標題紙に記載されている。
- 4) 『百科全書』の刊行史については、寺田元一『「編集知」の世紀：一八世紀フランスにおける「市民的公共圏」と『百科全書』』（日本評論社、2003）、113-119ページを参照した。
- 5) 4つ折り版には、イヴェルドン版、スイス4つ折り版、『系統的百科全書』の3種が存在するが、最後のものはかなり異質であるため、『百科全書』のおもな異本としては通常、これを除く7種を指す。
- 6) 図表は、以下の文献を参照のうえ作成した。逸見龍生「書物としての『百科全書』：十八世紀ヨーロッパ『百科全書』異本ネットワーク」『欧米の言語・社会・文化』第12号（2006）、16-18ページ。  
ちなみに各版は、出版年に従って並べて変えた。
- 7) Richard N. Schwab, Walter E. Rex and J. Lough "Inventory of Diderot's Encyclopédie I," *Studies on Voltaire and the Eighteenth Century*, vol. 80 (1971); *id.*, "Inventory of Diderot's Encyclopédie II," *Studies on Voltaire and the Eighteenth Century*, vol. 83 (1971); *id.*, "Inventory of Diderot's Encyclopédie III," *Studies on Voltaire and the Eighteenth Century*, vol. 83 (1972); *id.*, "Inventory of Diderot's Encyclopédie IV," *Studies on Voltaire and the Eighteenth Century*, vol. 91 (1972); *id.*, "Inventory of Diderot's Encyclopédie V," *Studies on Voltaire and the Eighteenth Century*, vol. 92 (1972); *id.*, "Inventory of Diderot's Encyclopédie VI," *Studies on Voltaire and the Eighteenth Century*, vol. 93 (1972); *id.*, "Inventory of Diderot's Encyclopédie VII: Inventory of the plates, with a study of the contributors to the *Encyclopédie* by John Lough," *Studies on Voltaire and the Eighteenth Century*, vol. 223 (1984).  
ただし以上7冊のうち、最初の "Inventory of Diderot's Encyclopédie I" は導入部に相当する論文であり、実際の目録は、次の "Inventory of Diderot's Encyclopédie II" からである。
- 8) イタリアで出版された2種の2つ折り版（ルッカ版とリヴォルノ版）は、本文および図版ともほぼ完全にパリ・オリジナル版を模しているが、パリ版との区別は比較的容易である。たとえばリヴォルノ版の扉絵には、パリ版の扉絵としてよく知られたコシャンCochin

による寓意画が用いられず、トスカーナ大公ピエトロ・レオポルドへの献辞が捧げられ、出版地はリヴォルノと明示されている。また、これらイタリア版には、イタリア版編集者によって書き加えられた注釈や追加項目が確認されている。

- 9) 以下に述べられる3点の指標は、Richard N. Schwab *et al* "Inventory of Diderot's Encyclopédie I," pp. 108に記されている。
- 10) SOCIÉTÉとMATHÉMATIQUEのアクサン・テギュの欠落という特徴は1-7巻まで共通であるが、5-7巻は、Mis en ordre & publié par M. DIDEROT, de l'Académie Royale des Sciences & des Belles-Lettres de Prusse; & quant à la PARTIE MATHÉMATIQUE, par M. D'ALEMBERT, de l'Académie Française, de l'Académie Royale des Sciences de Paris, de celle de Prusse, & de la Société Royale de Londres, de l'Académie Royale des Belles-Lettres de Suede, & de l'Institut de Bologne.となっており、par M. D'ALEMBERT以降に1-4巻との異同が見られる。
- 11) Richard N. Schwab *et al* "Inventory of Diderot's Encyclopédie I," pp. 110-120.
- 12) 図版集の鑑定指標については、Richard N. Schwab *et al* "Inventory of Diderot's Encyclopédie VII," p. 52, p. 56を参照した。
- 13) シュワップらは、「折り記号」を補助する役割で付された記号をこう名づけた。「製本指示記号」は、イタリック体で項目名が示されたものであったり、数字を含んだりしていた。cf. Richard N. Schwab *et al*. "Inventory of Diderot's Encyclopédie VII," p. 38, p. 52.
- 14) Richard N. Schwab *et al* "Inventory of Diderot's Encyclopédie VII," pp. 41-49, pp. 53-56.
- 15) シュワップらが詳細な調査を行ったのは、おもにこの「パークリー・セット」である。
- 16) 『百科全書』の本文全17巻のうち1-7巻が、ジュネーヴ版「パークリー・セット」と異なっている。
- 17) 「リヴァーサイド・セット」を判別する対照項目については、Richard N. Schwab *et al* "Inventory of Diderot's Encyclopédie I," pp. 95-100を参照した。
- 18) デジタル化された『百科全書』には、シカゴ大学のプロジェクトによるARTFL版（ウェブサイト）と、フランスのルドン社によるRedon版（CD-ROMとDVD）がある。鷲見洋一によれば、専門研究者をターゲットにした前者は、おもに図書館・研究機関からアクセスが可能な有料サイトであり、初期では誤りが多かった。普及版を標榜した後者にも同様の欠陥があり、スキャナーによるテキストの誤認識が少なくない。  
これらは、『百科全書』の知的仕掛けのひとつであるクロスレファレンスをたどる際などには、デジタル・データの強みを発揮するものの、デジタル化の対象から外れたアナログ・テキストの扱いが最大の難点であるといわれている。たとえばデジタル化された『百科

全書』では、扉絵を含む画像データ、非アルファベット文字は排除され、数式や表にも弱く、脚注への考慮もなされていない。こうした状況を鷺見は「『電子テキスト』と『アナログ書物』はまったく別な存在なのである」と指摘している。鷺見洋一「寺田元一『『編集知』の世紀—八世紀フランスにおける『市民的公共圏』と『百科全書』』」（書評）『日本18世紀学会年報』第20号（2005）、82-83ページ。デジタル化された『百科全書』の欠陥については、鷺見洋一『『百科全書』研究の

現在：回顧と展望』『藝文研究』第89号（2005）、284-285ページでも言及されている。

以上の状況をふまえ、現在、「慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構」The Research Institute for Digital Media and Content, DMCでは、鷺見洋一、逸見龍生を中心としたプロジェクト「ポスト百科全書主義」が『百科全書』本文のデジタル化に取り組んでいる。